

緑の担い手

山に魅せられて

高萩市森林組合

酒入 千賀子



「バリバリバリ…ズドーン」。

地響きをあげて倒れ落ちる大木。

一瞬の静けさの後、擦れ合った幹の皮がさらさらと輝いて空中を舞い、柔らかな日が差し込みました。私は思わずファインダーから目を離して、その光景に見入ってしまいました。私が初めて伐倒を目にしたのは今から二三年前のことです。高萩市上君田の国有林が茨城県の指定廃棄物最終処分場の候補地に選定され、当時ニュース番組の記者兼カメラマンだった私は、地元の人たちの思いを取材しようとする林業に携わる男性のもとを訪ねました。

日々時間に追われ取材に翻弄されていた私は、真つ直ぐに伸びた木々が整然と立ち並ぶ雄大な風景、身の危険も顧みず大木を切り倒す姿の美しさ、長い時間をかけて山を育てることの尊さに心を奪われました。

そしてこの春、私は第二の人生を歩みだしました。右も左もわからず飛び込んだ林業です。四二歳と遅いスタートに加えて男性より体力は劣ります。不安もありましたが「緑の雇用」研修生として一から学び、仕事で必要な知識や免許を習得したことで少しずつ自信が持てるようになってきました。今は経験を積んで一日でも早く確実な技術を身に着けることだけを考えて仕事に励んでいます。人は生活を営むために仕事をします。自分がやりたいこと、適していること、出来ること、この三つが当てはまる仕事を見つけられる人はそう多くありません。林業が私にとってそうであるかは、まだ分かりません。仕事は想像以上に重労働で悪戦苦闘の毎日です。でも息を切らしながら登る現場への道も伐倒する度に見上げる空も今の私の生活に欠かせないものであることは確かです。この急斜面で繰り返される植栽から伐採までの様々な作業。手渡されたバトンをしっかり繋いでいきたいと思えます。